

令和5（2023）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修Ⅱ①

実施報告

実施日：令和5年9月14日（木）

当研修は、社会の要請に応じた生涯学習・社会教育行政を推進するために、各自治体で取り組むべき施策の方向性に関する知識や新たな取組を展開するのに必要な技術の習得を目指すことをねらいとしています。

第1回は、これからの生涯学習・社会教育行政が目指すべき新たな施策の方向性にある「ウェルビーイングの実現」に関する基本的な知識を得ることを目的として実施し、生涯学習・社会教育主管課や公民館・市民センターの職員等15名の方が参加しました。

○ 講話「これからの生涯学習・社会教育行政の目指すもの～中央教育審議会議論の整理から～」

杏林大学客員教授 清原 慶子 氏

清原先生は常磐大学、ルーテル学院大学、東京工科大学で教鞭を執った後、平成15年4月から東京都三鷹市長を4期16年務めました。その後、再びルーテル学院大学に勤め、総務省など複数の審議会委員も務めています。令和4年8月には、文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会長として「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」をとりまとめ、「第4期教育振興基本計画」に「ウェルビーイングの向上」の掲載に尽力するなど、ウェルビーイングの実現について造詣が深い先生です。

今回は、清原先生からウェルビーイングの概念、生涯学習分科会と第4期教育振興基本計画の作成段階での議論内容、2つの会議を踏まえて第12期生涯学習分科会で話し合われているウェルビーイングの視点、今後の生涯学習・社会教育行政の在り方を考える意義、第4期教育振興基本計画を基盤としたコミュニティ・スクールの意義やリカレント教育等の概念、障害者の生涯学習の推進など多岐にわたる話がありました。受講者は清原先生が持つ情報量の多さと充実した講話内容に圧倒されつつも、真剣に講話を聴いていました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・日本型ウェルビーイングという考え方とその内容や指標などについて、具体的に考えることができました。
- ・初めてウェルビーイングについて講話を聴く機会となりました。いろいろと学ぶことが多く、新たな疑問も生じました。これからは自分自身がウェルビーイングについて学び、この疑問の解消に務めたいと思いました。
- ・今年閣議決定された「第4期教育基本計画」を読んでも分からないことが多かったです。しかし、清原先生の講話を聴き、理解することができました。
- ・「第4期教育振興基本計画」からウェルビーイングを読んでも理解することができませんでしたが、清原先生の講話を聴いて、「日本型ウェルビーイング」という概念を知り、理解が進みました。
- ・ウェルビーイングについて概念から学ぶことができて良かったです。また、公民館の重要性について再認識する機会にもなりました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp

